

趣旨（実招へいの一部実施）

学生による**共同研究調査**や**オンラインシンポジウムでの報告**など、双方向の研究発表等の交流を通して、両大学における広範な分野での共同研究を行う土壌を育成し、共同研究能力の強化を図る。

内容

- 1日目 : プログラム実施についてのガイダンス、両大学の学部・研究科を紹介する。研究調査テーマ設定についての意見交換を行う。
- 2、3日目 : 双方の関連研究室の研究成果や学生自身の研究を紹介し、質疑応答を行う。研究調査テーマ設定について意見交換・決定をし、それぞれ研究調査を進める。
- 4日目 : 医療関係者と高齢福祉施設の経営者による招聘講演、教員による特別講義（本プログラム参加学生以外の学生の聴講も可とする）。
- 5、6日目 : 双方の関連研究室の研究成果や学生自身の研究を紹介し、質疑応答を行う。参加学生による研究調査中間報告、意見交換を行う。オンラインシンポジウムでの発表に向けて準備する。
- 7日目 : 共同研究調査の成果を発表するオンラインシンポジウムを開催する（本プログラム参加学生以外の学生の聴講も可とする）。

【使用ツール：ZOOM】

JST支援費用

- 講演者謝金
- RA・TA謝金

工夫

- 双方それぞれ3つのチームを構成し、全体の共通テーマとチームごとのテーマを設定する。テーマに関して**双方のチームが3つのペアを組み**、研究調査と意見交換を行う。
- **ブレイクアウトセッション機能**を利用し、ペアとなったチームが意見交換しやすくするなどオンライン交流の円滑化を図る。
- **RA・TAの大学院生・留学生が、研究調査と語学の補助**を行う。
- シンポジウムでの発表の後、参加者全員による投票でBest Research AwardとBest Presentation Awardを選ぶ。
- 交流を通じて**学生研究会を設立**し、今後もオンラインを主とする研究交流を継続する。

東北大学 大学院環境科学研究科

趣旨（実招へいの代替プログラム）

外部講師を招いた複数の講義や、オンライン見学会、オンライン実験やグループディスカッションを組み合わせ、共同で研究開発を行うための基盤を固める。

内容

- 1日目： 実施機関と参加機関の大学、研究室、学生の紹介を行う。
- 2日目： **外部講師による講義**（協力機関や企業の講師による「土壌汚染」関連講義と質疑応答）。
- 3日目： **ビデオ撮影によるオンライン見学会**（土壌汚染最終処分場、プラスチックリサイクル施設）を行う。
オンライン実験（実施機関、参加機関の混合グループをつくり、それぞれ土壌汚染の浄化に関する土壌カラム試験を行う）。
- 4日目： 成果報告会（プレゼンテーション、意見交換）、交流会
【仕様ツール：VooV Meeting …日中両国で使用可能で実績のあるツール】

JST支援費用

- ・ 外部講師の謝金
- ・ 交通費および宿泊費
- ・ 実験用消耗品
- ・ 紹介ビデオ・教材制作

工夫点

- 経済的・時間的に効率的にオンライン交流を行うため、**双方の大学における交換留学生を中心にコーディネータを選定**して、円滑に交流を進めるように工夫した。
- 交流内容について
 - ・ グループディスカッションによるアクティブな交流（グループ毎に両国で共通するテーマを設定し、実験や解析の実際を双方向で実施。**グループは両国の各3名程度で構成**し、実験の結果や考察に関してグループ討論を進める。）
 - ・ 外部講師による企業や自治体の環境対策実務を紹介
 - ・ 双方向のオンラインにおいて実験や解析等を実施
 - ・ **ビデオ撮影やオンライン見学会による可視化教材**

交流内容を決めた理由や経緯

大学間の協定が締結されており、学生や教員の人的な交流が盛んに行われている。

学生間のオンライン交流は初めての試みだが、すでにオンライン授業や共同研究の交流の実績があり、問題なく実施できる見込み。

趣旨（実招へいの代替プログラム）

タイおよび日本の学生による少人数のオンライングループワークと各国でのフィールドワークを組み合わせ、農業および農学分野における共通の課題認識を深める。

内容

- 1～4日目 : キックオフイベント（実施内容の説明、参加教員による両国の農業事情のレクチャーなど）。
グループワークを通して調査を企画・立案（共通課題として5コースを設定して、コースごとに両国の学生が参加する）
- 5～21日目 : グループごとに、**両国それぞれで実地調査、研修**（日本では期間内の2,3日間で愛知、三重で研修）
- 22～24日目 : 現地研修後、グループワークにより**成果を共有、ディスカッション**
- 25日目 : 成果発表会

【使用ツール：Zoom】

JST支援費用

- ・ 実施担当教員交通費・日当
- ・ TA謝金（イベント補助）

工夫した点・苦労した点

- ・ オンライン交流でグループワークを行う際には、日本とタイに共通するテーマを設定した上で参加者のグループ分けを行った。この時、参加機関ごとの学生数に偏りが出ないように留意してグループ分けすることで、それぞれの国について相互理解を深め、協調して研修に取り組める状況にした。
- ・ オンライン交流における英語によるコミュニケーションを促進することを目的として、実施機関に所属する留学生にTAとして参加してもらった。
- ・ オンラインのみのプログラムであることから、キックオフイベントにおける学生間のicebreakerの必要性を実感した（今後のプログラム企画への課題として）。

名古屋工業大学 大学院工学研究科

趣旨（実招へいの前準備）

それぞれの大学紹介や研究室紹介を行うとともに、**サンプル測定用のサンプルを作製、測定後に実験結果を双方でオンラインで解析・データ結果についての議論**を行った。

元計画・・・Bコース：新エネルギー材料の研究開発



内容

- 1 日目 13:00-16:00 : 双方の大学紹介、研究室紹介
- 2 日目 13:00-16:00 : 名古屋工業大学・カリタ研究室の研究紹介、研究について議論、意見交換・質疑応答
- 3 日目 13:00-16:00 : インド工科大学の研究室の研究紹介、研究について議論、意見交換・質疑応答
- 4 日目 10:00-17:00 : サンプル測定のためのサンプル作製、実験方法等のレクチャー
- 5 日目 10:00-17:00 : 日本の研究施設紹介
- 6 日目 13:00-16:00 : **サンプルを名古屋工業大学で測定し、実験結果をオンラインで解析とデータ結果についての議論**
- 7 日目 16:00-17:00 : 今後の共同研究テーマ、それぞれが進める研究テーマおよびさくらサイエンスプランでの実施内容に関するディスカッション

【仕様ツール：Google meet】

JST支援費用

- ・実験消耗品
- ・TA/アルバイト謝金
- ・教員、学生の交通費や日当

工夫点

- ・インドと日本には時差が3.5時間あるので、双方の負担にならない時間で調整を行った。
- ・**研究室の外国人留学生も積極的に参加してもらうことで、協調して取り組めるようにした。**

交流内容を決めた理由や経緯

第1回日印大学交流会でインド工科大学の教員と本プログラム申請について話し合う機会があり、申請・採択となったが、実招へいは辞退することとなった。しかし、今後の実招へいでの共同研究にむけて、今回は全7日間のオンライン交流を行うこととした。

趣旨（実招へいの前準備）

テーマに関する**講義**や**演習**、**協力機関の講義動画**の視聴、**グループ討論**、**成果発表**を通して、両国に共通する「高齢者の摂食嚥下における課題」というテーマについて理解をより深める。

内容

1日目： 実施機関の教授による講義、演習

（摂食嚥下のメカニズムと、高齢者における摂食嚥下障害についての基本的な知識を提供し、摂食嚥下障害のリスクスクリーニングのための問診や、身体所見に関する評価方法を実演を通して紹介する）。

2日目： 特別養護老人ホームおよびリハビリテーション病院からの講義動画の視聴、質疑応答

（各施設スタッフによる講義を動画で紹介し、オンタイムで施設スタッフへの質疑応答の時間を設ける。）

3日目： 相手機関の教員による「英語プレゼンテーションの方法・コツ」に関する講義を受けたのち、本学看護学生と招聘学生混合のグループに分かれ、グループ討論、成果発表を行う。

JST支援費用

- ・ 外部講師の謝金
- ・ 交通費および宿泊費
- ・ 実験消耗品
- ・ 紹介ビデオ制作